

県中教研 社会部会だより

第 33 号

発行日 平成30年3月
発行所 富山市千歳町1-5-1
富山県中学校教育研究会
編集責任者 藤森 裕
題 字 金山 泰仁 先生

社会の形成に参画し、発展に寄与する態度の育成

主任指導主事 松浦 悟

平成29年3月31日に中学校学習指導要領が公示され、7月に京都で文科省の伝達講習が行われた。調査官の話聞きながら、今回の社会科の改訂では、「社会的な見方・考え方を働かせた思考力、判断力、表現力等の育成」と共に「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養」が重要であるという印象を受けた。平成28年6月からの選挙権年齢の引き下げによる主権者教育の推進が大きな要因であろう。

公民的分野はもちろん、地理的分野では地域にみられる地理的な課題を多面的・多角的に考察する学習、歴史的分野では民主政治の来歴や人権思想の広がり等、学習内容も大きく見直されている。

今年度参観させていただいた地理的分野「身近な地域の調査～各地域の視点を利用して～」の授業も、年間を通して滑川市を様々な視点で観察した上で、「滑川市がより魅力的な市になるための方策を考える」ことを学習のまとめとした。

本時では、「交通網の発達は滑川市にどのような影響を与えたのだろうか」という課題について、生徒はグループで話し合ったことを色分けした付箋を使い、ウェビングマップにまとめていった。そして、それをグループで紹介し合った。

「工場面積が増加することは必ずしもよいことではない」「ホテルイカミュージアムの入場者数が減った本当の理由は何だろう」と、互いのマップを見比べることで、考えの見直しが図られていった。

ただ単に主権者教育に関わる学習内容が増えただけでは、「主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度」は養われないだろう。

社会的事象の意味等を多面的・多角的に考察したり、社会にみられる課題の解決に向け選択・判断したりする学習を一層充実する必要性を感じる。
(東部教育事務所)

授業改善に向けて

部長 藤森 裕

今年度10月に滑川市立滑川中学校で行われた新川地区の研究大会で、学力向上アドバイザーである米田豊教授の講演を聴く機会に恵まれた。その講演の中で、「改善学習指導案作成の勧め」について話された。米田教授は、1年間に数多くの研究授業を学生(現任教員も含む)と共に参観し、研究授業が終わった後に改善指導案の作成を学生に課すそうである。その回数は、年間20回以上になるという。改善指導案作成の回数をこなすごとに、授業構成や学習課題などの質がよくなっていき、この地道な実践は最終的には授業づくりの武器になるのだと話された。

今年度も、本県では多くの研究授業が行われた。各地区、各郡市で行われた研究授業では、授業者を中心に研究主題の解明を目指し、指導案の検討が行われた。研究発表に向けて多くの実践が積み重ねられ、発表資料の検討会も実施された。多くの先生方が、自分だったらどのように改善して授業を行うかということを考えながら研究授業や協議会に参加されており、中には、改善した指導案を作成して追実践を行った先生もおられたと聞いている。

また、本県で行われる学力調査では、応答分析やS-P分析が行われており、生徒の学力の傾向を把握して教師の指導方法を振り返り、授業改善ができる仕組みが整えられている。

これらのことを考えれば、私たちには授業改善に向け、普段の授業を振り返ったり分析したりするチャンスが多く与えられているということになる。新学習指導要領が公示された今を、指導の在り方について考えるよい機会ととらえ、授業の振り返りや学力調査の分析結果を有効に活用し、今後も研究を進めていく必要性を感じている。

(高・芳野中)

第 61 回 研究

新 川 地 区

(滑・滑川中)

(1) 研究授業

滑川中学校の浜田翔太教諭が2年地理的分野「身近な地域調査」の単元において、「交通網の発達には滑川市にどのような影響を与えたのだろう」という学習課題で授業を行った。浜田教諭が取り入れた思考ツールのウェビングやワールドカフェの手法は、思考を比較・関連付けたり、生徒同士の対話を活発にしたりする



ことに有効であった。また、地域教材を扱うことにより、生徒の興味・関心を高めることができた。身近な地域の課題を生徒自身が考える、社会参画の視点を取り入れた授業であった。

部会協議では、松浦悟主任指導主事から、生徒の学びを深めるためのねらいや学習課題の設定、話し合い活動の在り方についてご助言いただいた。



(2) 学力向上アドバイザーによる講義

兵庫教育大学副学長の米田豊先生より、「社会科における主体的で対話的で深い学びとは」と題しご講演いただいた。社会科の授業は、「習得」と「活用」を組み込んだ「探究」学習であり、知識の習得のみに終始する学習や研究授業でよくみられる、手法に頼りがちな活動ばかりの学習では不十分であるとのご指摘をいただいた。そのためには、新学習指導要領に記述される、「社会的な見方」や「社会的な考え方」の内容を意識した授業計画、実施が必要であるのご助言いただいた。

桂 明日菜 (下・入善西中)

富 山 地 区

(富・大沢野中)

(1) 研究授業

2年地理的分野では、村田教諭が「なぜ中国地方では人口の偏りが見られるのか」という学習課題で授業を行った。生徒は山陽地域と山陰地域で人口の減少率に差が生じている原因について、中国地方に関する



様々な資料に基づいてグループで考え、話し合ったことを発表し、考察を深めた。グループ活動で地図帳を資料として有効活用したり、終末において県内の新聞記事を用いて知識を概念化したりして、研究主題に迫った。3年公民的分野では、福村教諭が「主権者であるあなたは、どちらの候補者に投票するのか」という学習課題で授業を行った。架空の二つの政党を設定し、提示された公約等を基にどちらの政党を支持し候補者に投票するかを考える学習であった。その展開はグループ及び全体での活発な意見交換の後に実際に投票を行うもので、生徒が主権者として自分の考えをもつために、大変有効であった。部会協議①では、青山主任指導主事、川田主任指導主事からそれぞれの授業の改善ポイント等を助言していただいた。

(2) 研究発表

部会協議②では、新庄中学校から「思考力・判断力・表現力等を育てるための教材開発や学習活動はどうあればよいか」という研究主題を基に「基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、生徒の追究意欲を高める教材開発や学習活動」の授業実践に関する提案発表が行われた。青山主任指導主事から「基礎的・基本的知識の定着は社会科にとって永遠の課題であり、情報の宝庫である教科書をしっかり読むことは重要な手立てである」また、「新学習指導要領の実施に向けたキーワードとなる『見方・考え方』における視点を確認しておくことが必要である」などの助言をいただいた。

講神 勝己 (富・山室中)

大会報告

高岡地区

(高・芳野中)

(1) 研究授業

魚川江美子教諭が、1年地理的分野「ヨーロッパ州」の単元で「イギリスが離脱を表明したEUは、今後発展していくのだろうか」という学習課題で授業を行った。EUの利点や問題点について、資料から読み取れることを基に考察する活動を通して、EU発展の可能性について自分の考えをもつことができる生徒の育成をねらった。部会協議①では、「EU発展の可能性について多角的に考え、更に他者の意見を参考にしながら自分の考えを練り上げて、活発な意見交換がなされていた」とする意見が出た

一方、「本時の目標を達成するための学習課題や評価方法について、更なる研究の必要性がある」との意見もあった。



宮崎靖指導主事からは、グローバル化への対応を進めている日本にとってEUの事例に学ぶことは有意義であることや、適切な学習課題の提示や丁寧な机間指導により活発な話し合いが行われていたこと、今後も生徒の思考を促す構造的な板書が期待されること等について指導助言をいただいた。

(2) 研究発表

高岡市立五位中学校の松本真吾教諭が、思考力・判断力・表現力を育てるための地域教材の活用や学習活動について発表を行った。高岡市で毎年行われている現地学習会や市埋蔵文化財センターとの連携授業等の事例を通して、実物に触れながらの授業の展開の工夫が思考力・判断力・表現力を育てていくことにつながるとの報告が行われた。宮崎指導主事からは、地域人材を生かした体験的な学習活動が充実していることや、更に適切な課題や視点を与え根拠を基に考察させること等について助言をいただいた。

村井 和恵(氷・西條中)

砺波地区

(南・井波中)

(1) 研究授業

大浦瑞紀教諭が3年公民的分野で、「南砺市がこれからも住みたい街になるにはどうすればよいか～南砺市への提言を考えよう～」という学習課題で授業を展開した。様々な年代の住民の立場から、南砺市に取り組んでほしい政策のランキングとその根拠をもとに意見交換することで、政策を行う上での価値や自らと地方自治の関わりについて自分の考えをまとめるという、思考力・判断力・表現力の育成をねらった授業であった。



部会協議会①では、単元を貫く課題を設定し、生徒の思考の流れを意識した単元をデザインしていたことを評価する意見が多かった。一方で、「課題のねらいがぼやけていたようだったので、ねらいを絞った課題を提示すれば、生徒の思考がより深まったのでは」という意見もあった。

川田和子主任指導主事からは、生徒の実態に合わせて単元をデザインしたことや、既習事項を使ってランキングをつくる授業を展開したことが、主体的に学ぶことができる生徒を育てる上で有効だったとの指導をいただいた。一方、終末に「住民に望むこと」を記入させたが、「市への提言」を記入するだけに留めればよかったという指摘もいただいた。

(2) 部会協議(ワークショップ)

学習指導要領を用いた単元の構造図の作成を行った。川田主任指導主事から、学習指導要領の内容を読み取り、単元の目標やそれに到達するために習得すべき概念や知識を抽出する手立ての説明を受けた後、実際に単元の構造図を作成してグループ内で発表を行った。活発な意見交換がなされ、単元構成をよりよいものにする上で有益な実習となった。

塚原 平馬(砺・庄川中)

中新川郡中教研社会部会・活動報告

(9月25日：研究授業)

中新川郡中教研社会部会では、県中教研社会部会や授業校の研修主題を踏まえた若手教員による研究授業を実施した。本年度は、上市中学校の杉沢雅樹教諭が、1年地理的分野「世界の諸地域」の単元で「中国の工業化や経済発展の背景を資料から読み取り、人口や資源、賃金の面から考え、現在の中国の課題について考えることができる」ことをねらいとして授業を行った。中国は近年めざましい経済発展を遂げているが、その一方で課題も数多く生じている。そのような中国の経済発展の理由や課題について資料を通じて読み取

らせ、班で話し合った結果をホワイトボードにまとめ、発表するという形式で授業が行われた。



授業の導入として「中国の一人当たりのGDPの推移」等、中国に関する13種類の資料を1枚のプリントに収めて配布し、個人で中国の経済発展の理由について考えさせた。その後、班で経済発展の理由を複数考えさせ、ホワイトボードにまとめて発表させた。授業のまとめとして、「中国が今後取り組んでいかなければならないことは何か」を記入させ、課題についてより理解が深まるようにした。

事後研究会では、「資料の数が多く、読み取りに時間がかかる生徒がいたため、ねらいを絞った資料の精選が必要である」「多面的・多角的に資料を読み取る視点を与えるべきである」「大きなホワイトボードは、話合いのときも黒板に貼ったときも見やすくよかった」等の意見が出た。参加した部員にとっての共通の課題も見えてきたため、これらの研修を通して今後も授業力の向上を目指していきたい。

岡田 健亮 (中・雄山中)

射水市中教研社会部会・活動報告

(6月6日：市中教研社会科部会現地研修会)

射水市中教研社会部会では、新湊博物館において、教員を対象とした現地研修会を実施した。

新湊博物館では、学芸員の松山さんから博物館の利用状況や利用の仕方、博物館の展示に関する説明をしていただいた。

学校で活用できるDVDを視聴した後、地理的分野・歴史的分野・公民的分野に関する地域教材の提示をしていただいた。DVDは10分程度に編集されており、授業にも活用できる内容であった。

展示室では、新湊の歴史、地名や地形、商業等の情報について詳しく教えていただいた。射水市でも若手教員の割合が高くなっており、射水市に関する史料について詳しく知るよい機会となった。射水市では、新規教員を対象に、夏休みに射水市の史跡や施設を見学する機会があるが、このように専門的な内容を学ぶことは社会科教員として有意義である。今回の研修会で、博物館の利用や地域に残



る史料を活用することが大切であること、そのために、実際に見学したり専門的な知識を学んだりすることが重要であることを改めて感じた。

牧野 巖 (射・射北中)

